

題 材 名	衣生活・住生活の自立		
内容・項目	C－（２） 住居の機能と住まい方		
指導時間	7時間		
題材のねらい (題材の特徴)	<p>住まいは家族にとって最も身近な環境であり、基本的な生活の場として大切な存在である。安全で快適な住まいを整えることは健康な生活につながり、私たちの生活を支える根幹となる。</p> <p>生徒の住まいへの意識は、当たり前すぎて空気のような存在であり、その価値については気づきにくいものである。住まいの改善をリフォームなどの大がかりなイメージでとらえてしまうと生徒個人ではどうにもならないものと考えがちである。しかし、「住まい方」の視点からとらえることで、もっと身近な課題として感じさせることができるのではないだろうか。住まい方の見直しや工夫、改善で、自分を含めた家族の生活がよりよくなることに気づかせたい。そこで、実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に住生活へ取り組もうとする意識をもたせたい。現在の住まい方を見つめ、工夫し改善していこうとする態度が自らの住生活を創るものとする。その上で、自分なりの住居観をより豊かなものとするように学習を展開し、将来を展望したよりよい住生活を実践しようとする態度を養いたい。</p>		
学習の流れ (展開の工夫)	時 間	指導項目	主な指導内容
	1時間	・ 家族の生活と 住まいの機能	・ 共通の住まいと家族構成を提示して、課題と学習内容を一律にする。コンピューターグラフィックスを活用して、生活動作を立体的に捉え、家族の生活と住まいの機能について考えられるようにする。
	1時間	・ 安全で快適な 住まい	・ 共通の住まいのモデルを活用して、安全で快適な住まいについて具体的に考えさせる。問題点に気づき、それに対する改善点を考えさせる。
	2時間	・ 安全に住むた めに 「地震対策」 「高齢者の事 故防止」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地震などの自然災害による住まいの被害や備え方について、デジタルコンテンツを活用して考えさせる。転倒防止用具を用いて安全な住まい方を意識した室内環境の整え方を具体的に考え、工夫できる。</li> <li>・ 家庭内の事故の防ぎ方や安全な住まい方を考えるために、高齢者疑似体験や車いすでの走行体験を行う。体験を通して、実生活に結びつけてとらえ、基本的な知識を理解させる。</li> </ul>
	2時間	・ 快適に住むた めに 「防音の工夫」 「快適な空間 の工夫」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 室内の音と生活のかかわりの視点から、音の聞こえ方の体験を通して防音の工夫を実生活に結びつけて考えさせる。</li> <li>・ 室内の空気調節や明るさ、清潔の面から、室内環境の整え方を住宅広告を活用して具体的に考えさせる。健康に配慮し、家族が心地よいと感じられる住まいの工夫ができるようにさせる。</li> </ul>
	1時間	・ よりよい住ま いと住まい方	・ 共通の住まいのモデルをもとに、家族の生活を関連づけて考えたよりよい住まい方の工夫について、対話を通して考えさせる。住まいに関心をもち、自分なりの課題をもってよりよい住まい方を意識した生活の実践に結びつくようにさせる。

題材の紹介  
と作品例

「地震災害の備え方」



「高齢者疑似体験」



「音の聞こえ方体験」



「車いす走行体験」



「快適な空間の工夫～住宅広告から考える～」



「よりよい住まい方についての話し合い」



準備・材料等

共通の住まい模型, コンピュータグラフィックス, 実物投影機, テレビ, 高齢者疑似体験セット, 車いす, 家具転倒防止具, 住居用マット, 滑り止めシート, CDデッキ, 防音ブロック, ワークシート, キーワードカード

〔本題材を考案するに当たって参考にしたもの〕  
「サザエさんの家庭科教育論」 渡辺光雄 教育図書  
ホームページ「サザエさん市場」